

「安全性向上3カ年計画」の実施状況(2014年度)と今後の取組みについて

取組み方針	到達目標	「安全性向上3カ年計画」実施状況(2014年度)	有識者委員会のご意見
(1)安全を最優先とする企業文化の構築	◇「お客さまの安全が何よりも優先する」という意識を持ち、潜在的リスクにも目を向け、強い責任感を持って自ら考え行動している。 ◇現場の安全に関する問題意識と経営者の安全に関するメッセージが日常的に相互で確認できている。	・到達目標の達成に向けて、個々の取組みを計画に従い継続的に実施し、「安全を最優先」とする経営理念は浸透しつつあり、また、安全に関するグループ内の連携・コミュニケーションも強化されています。 ・個々の取組みを継続し、特にリスク意識や、経営陣と社員との間での現場の課題の共有をさらに深めていくことなどを通じて、「安全を最優先」とする経営理念をグループ全体で根付かせていく必要があります。	1. 取組み状況全般について ①組織全体で取り組む体制が確立され、到達目標に向かって、個々の取組みが着実に実行されている。 ②到達目標を目指し、気を緩めず積極的に個々の取組みを継続していただきたい。 2. 今後の取組みに際してのアドバイス ①経営陣・管理職層と現場の社員とのコミュニケーションを一層活性化させるとともに、現場を担当する若手社員の活用や現場からの提案の取り上げなど、現場の課題の共有を更に深め、その解決を推進していくことが重要。 ②今回整備したルールや仕組みが陳腐化、形骸化しないために、常に業務実態の変化を取り込んで使えるものとするための仕組みを業務プロセスに内在させておくことが重要。 ③構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した技術の開発・導入や、専門技術者の育成を進め、安全を支える技術力を発揮することが重要。 ④安全性向上に向けた事業計画の進捗管理を徹底し、3カ年で達成することとした安全対策を完了させることが、信頼回復のためには重要。
(2)構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの見直し	◇道路構造物のあらゆるリスクに対応した業務の計画・実行・評価・改善のサイクルが確実にかつ効率的に行われている。	・到達目標の達成に向けて、2013年度に整備したルールや仕組みにより、建設段階から維持管理段階、保全点検から維持修繕までの業務を実施し、道路構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務が開始されました。また、点検・補修の新たな技術開発を、国や大学、民間企業などと連携し進めています。 ・業務のPDCAサイクルが回り始めた段階であり、業務の実施状況や効果等を継続的に評価・改善していく必要があります。	
(3)安全管理体制の確立	◇安全に関する組織横断的体制を強化し、社内及び海外を含む社外の情報収集・共有はもとより安全性向上に向けた改善提案や新たな取組みが積極的に行われている。	・到達目標の達成に向けて、「安全掲示板」による安全に関する情報の収集・共有が着実に実行され、業務に活用されつつあります。さらに、安全監査、安全指導、品質管理巡回指導を計画に従い実施することで、安全管理体制の強化を図っています。	
(4)体系化された安全教育を含む人材育成	◇道路構造物の健全性を判断できる技術者をはじめ、安全を優先し自ら考える人材が継続的に育成され、誇りと意欲を持って業務に取り組んでいる。	・到達目標の達成に向けて、体系的な人材育成計画に基づいた各種取組みが実行されました。その結果、安全管理に関する技術力向上、自ら考え安全を優先する人材の育成及び社員のモチベーション向上に関し、安全意識や行動等に変化が見られるなど人材育成がなされつつあります。 ・一部の研修では、実施内容等の見直しが必要な点や、社員のモチベーション向上に関しては、更なる仕事の達成感の醸成や褒賞制度の積極的な活用を図る必要がある点も見られました。	
(5)安全性向上に向けた事業計画	◇道路構造物のあらゆるリスクに対応した業務の計画・実行・評価・改善のサイクルが確実にかつ効率的に行われている。	・到達目標の達成に向けて、換気ダクト類を撤去するなど、「安全性向上に向けた事業計画」の個々の取組みを計画に従い実施しました。	

今後の取組みについて

今後の取組みについて、取組み方針(1)～(5)ごとに以下のとおりとしました。

(1)安全を最優先とする企業文化の構築

- 個々の取組みを継続して実施し、「安全を最優先」とする経営理念をグループ全体で根付かせていくとともに、グループ内の更なる連携を図ります。
- 新たなリスクマネジメントの仕組みにより、リスク意識を深化させるとともに、自律的なPDCAサイクルを回していきます。
- 経営陣と社員との直接的な対話を通じて、また、経営陣からの情報発信を踏まえ、中間層が日常業務において部下とのコミュニケーションを更に活性化させます。
あわせて、現場を担当する若手社員の活用や現場からの提案の取り上げなど、経営陣と社員との間で、現場の課題の共有を更に深め、その解決を促進します。
- 引き続き、組織改革の効果等を検証し、継続した改善につなげていきます。

(2)構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの見直し

- 道路構造物の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務のPDCAサイクルを確実に回していきます。
- 補修に関する技術開発や点検の確実性・効率性を向上させる技術開発を確実に進め、速やかに現地に適用します。
- 常に業務実態の変化を取り込んで使えるものとするための仕組みを業務プロセスに内在させ、整備したルールや仕組みが陳腐化、形骸化しないようにしていきます。

(3)安全管理体制の確立

- 安全管理体制を強化するため、情報開示の取組みとして、点検計画やその実施結果等、業務プロセスの「見える化」に取り組めます。

(4)体系化された安全教育を含む人材育成

- 継続的に専門技術者などの育成をすすめ、安全を支える技術力の向上を図っていきます。
- 点検や補修業務の「見える化」を継続し、成果を認知・称賛するとともに、現地での地道な取組み等の表彰を積極的に実施することで、社員のモチベーション向上に努めます。

(5)安全性向上に向けた事業計画

- 「安全性向上に向けた事業計画」の達成に向けて、確実な事業の執行管理を行います。
- 事業を確実に実行するため、引き続き、工事の入札の不調対策に取り組めます。